



Data
監督：新藤風
出演：伊東蒼／安藤サクラ／金城美
／山田真歩／洪川清彦／角
替和枝／でんでん

■■■ショートコメント■■■

◆本作は、故新藤兼人監督の孫娘で、『一枚のハガキ』（11年）『シネマールーム27』（91頁参照）の監督補佐を務めた新藤風の2作目の長編監督作品。このタイトルを「しまじまかいしゃ」と読むのはまず不可能だが、チラシを見ると安藤サクラがヴァイオリンを弾く姿で出演しているからこりゃ必見！他方、子役は『湯を沸かすほどの熱い愛』（16年）で見事な演技を見せた伊東蒼だからこちらも必見！

◆本作は、沖縄の慶良間諸島を舞台にした近時の邦画には珍しい良質な映画で、いかにも新藤家の血筋をひく監督作品だと一目でわかる。また、耳が良すぎるために少しの音のズレも気になり頭がおかしくなるため回りと協調できず、いつも耳あてをしている9歳の少女・花島うみ（伊東蒼）という主人公の設定も面白い。

しかし、吹奏楽部のメンバーたちが弾く楽器の音の少しのズレが耳に入ると頭が痛くなるうえ、慶良間小中学校で開催されるコンサートのために東京からやってきたヴァイオリニスト・北川祐子（安藤サクラ）が弾く最初の曲は「キレイ」と感じて、沖縄の歌を弾くとたちまち「頭が痛い！」とダメ出ししたから、うみの耳を満足させるのは大変だ。さらに祐子を歓迎するヴァイオリン演奏会でも、ピアノの伴奏で1曲目をスタートすると、すぐに客席のうみから「音がおかしい。頭が痛い！」とダメ出し……。こんなすごい耳を持っていれば音楽の世界で使い道がありそうだが、自分では何も演奏できないから吹奏楽部に入ることもできず、うみはいつもイライラ。吹奏楽部のメンバーたちともいつもケンカばかり……。

◆そんなうみを毎日見守るのは、うみの祖父・花島昌栄（おじい）（金城美）だが、ストーリー展開の中ではうみの母親・花島さんご（山田真歩）をめぐる確執も1つの焦点となる。他方、おじいの音楽を理解する祐子は、「大和人はどうせ島を出ていく」という地元の漁師・真栄田（洪川清彦）の声にもかかわらず、少しずつ島民の支持を得るとともに、うみとの

交流を深めていくから、全体のストーリーはわかりやすく、ある意味で単純だ。

ひと波乱を観客に見せた後、うみは無事吹奏楽部に入りフルートの練習を始めるが、その音が最初はひどいのは当然。すると、うみはそんな音に耐えて練習を続けられるの？私
の見たところ、そこらあたりがどう考えても不自然だし、漁師の真栄田が昔サクスを吹
いていたすばらしい才能の持ち主で、急遽吹奏楽部の教え役になるという設定もかなり不
自然だ。

本作全編を通じた自然の美しさと海の美しさは特筆ものだし、シンプルなストーリーの
狙いもいいのだが、吹奏楽部のメンバーたちの音が1つになっていく過程は、イマイチ不
自然だと言わざるをえない。

◆近時は『0.5ミリ』（13年）（『シネマルーム35』180頁参照）、『百円の恋』（1
4年）（『シネマルーム35』186頁参照）と個性的な役での出演が続く演技派女優・安
藤サクラの充実ぶりはお見事だが、本作はヴァイオリニスト役だからその演技は難しい。
もっとも、フランスの美人女優メラニー・ロランがヴァイオリニスト役を演じた『オーケ
ストラ！』（09年）のクライマックスは大会場でのチャイコフスキーのバイオリン協奏曲
（チャイコン）の演奏だった（『シネマルーム24』210頁参照）から、その演技は大変
だったはずだ。

それに対して本作のクライマックスは、観客も数人しかいない漁港の前でのにわか仕立
ての「演奏会」になるうえ、うみたち吹奏楽部員たちの演奏にヴァイオリンが加わるだけ
だから、そのウエイトは小さい。もちろん、そのクライマックスに至るまでのストーリー
構成の中で安藤サクラのヴァイオリンの弾きぶりがポイントとなるシーンはいくつかある
が、さてそこで見せるヴァイオリニストとしての安藤サクラの演技力は・・・？

◆前述した『オーケストラ！』でも、昔観た矢口史靖監督の『スウィングガールズ』（04
年）（『シネマルーム4』320頁参照）でも、さらに陳凱歌（チェン・カイコー）監督の
『北京ヴァイオリン』（02年）（『シネマルーム3』18頁参照）でも、音楽映画はラスト
のクライマックスでの演奏が映画全体の出来を左右することになる。本作はストーリー展
開につれてタイトルとなっている『島々清しゃ』が何度も歌われかつ演奏されるが、最大
の見せ場はラストのクライマックスでの演奏と歌になる。

ところが、本作ではそのクライマックスに至るストーリーの盛り上がりイマイチなの
が残念。それは、おじいの死亡のため本来の演奏会を諦めざるをえなくなった祐子が、子
供たちに何も告げないまま突然東京に帰ろうとしたからだ。そのため、それを知った子供
たちが急遽駆けつけた漁港でのにわか仕立ての「演奏会」がクライマックスになるわけだ
が、どう考えてもこのクライマックスはイマイチ。なぜ、ラストをもっと島民全体で盛り
上がる感動的なクライマックスにしなかったのだろうか？

2017（平成29）年2月7日記